

コード	201050401
記入日:	H22.6.11

課コード	113
課名	環境課
課長名	白石英穂
担当者	前田光昭

事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	し尿汲取り用配管等管理事業
----------	---------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	4
施策コード	201	施策名称	しまの自然とともに生きる環境づくり	項コード	2
基本事業コード	20105	基本事業名称	適正なし尿処理の推進	目コード	1
事務事業コード	2010504	事務事業名称	し尿汲取り用配管等管理事業	細目コード	831
関連計画	新上五島町一般廃棄物処理基本計画	法令・条例規則等	廃棄物処理法・新上五島町廃棄物の処理及び再生利用等に関する条例		

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標				
(対象1)	し尿汲取り用配管利用世帯	(対象指標1)	549世帯			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	修繕 7箇所 新設 6箇所	*****	*****	*****	修繕・新設箇所数/修繕・新設計画箇所数	*****
		①	13箇所	100%		平成21年度
		(達成率分析)	修繕・新設予定箇所を全て計画通り対応できたため。			
*****		*****	*****	*****	整備計画作成箇所数/整備計画作成予定箇所数	*****
		②	5箇所	100%		平成21年度
		(達成率分析)	要望があった5箇所とも整備計画を作成した。			
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
し尿汲取り用の中継配管等の経年劣化による破損等に対して補修やホースの更新を行う。また、収集が困難な地域について整備計画を作成し、計画的な設置を行い、し尿の適正処理を推進する。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*****	*****	*****	利用可能日数/年間日数	*****
		①	365日	100%		平成21年度
				(達成率分析)	適正な維持管理により、年間を通して利用できた。	
*****		*****	*****	*****	新設数/新設計画数	*****
		②	6箇所	100%		平成21年度
		(達成率分析)	整備計画通り、し尿管及びホースを6箇所に新設した。			

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 箇所	43	43	30	13	13					
	② 箇所	5	5	5	0	0					
成果指標	① 日	1,826	1,826	1,461	365	365					
	② 箇所	24	24	18	6	6					
総事業費C(A+B)	千円	24,980	24,623	18,348	6,632	6,275					
直接事業費A	千円	9,580	9,223	4,348	5,232	4,875					
人件費B	千円	15,400	15,400	14,000	1,400	1,400					
内訳	従事職員数	人	2.2	2.0	0.2	0.2					
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	24,980	24,623	18,348	6,632	6,275					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 一般廃棄物の適正な処理を行うために必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 合併処理浄化槽の普及及び汲取り世帯の減少により、し尿中継管の利用は減少する可能性があるが、浄化槽汚泥の引き抜きなどの際にも利用するため、し尿管の整備や補修は必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由 住民の高齢化及び地形的な収集困難地域の世帯を対象としており、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由 整備台帳及び計画の作成により、計画的に維持補修及び新設を行うこととしたため期待以上の成果をもたらしている。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由 各地区に周知を徹底し、未整備地区を整備計画に入れ込むことにより、汲取り可能区域の拡大を図ることができると思われる。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由 し尿の不法投棄が行われる可能性がある。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由 類似事業が無い。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 整備台帳により、計画的かつ効率的に補修を行っており、最大の成果がでている。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 し尿管の修繕・新設整備計画等の作成、発注現場管理等に要する最低限の人員であり、削減できない。
	受益者負担は適正ですか。	はい ●いいえ	理由 現在は、し尿中継用の配管の設置に関して受益者負担はなく、維持管理を利用者において行っていた。今後、補修費や更新費用等が増大するようであれば、何らかの形での受益者負担が必要になる可能性がある。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	適正なし尿処理のため必要であり、計画的な修繕・更新の実施と、汲取り困難地区の把握が必要である。
		有効性	台帳による管理により計画的な修繕・更新を行うとともに、汲取り困難地区解消のため効率的な整備計画を作成し、し尿管の設置を実施していく必要がある。
		効率性	現在の要望に対しての修繕のみではなく、計画的な更新・整備計画を作成することにより、効率的なし尿管の更新・整備を実施し、適正なし尿の処理を推進する必要があると思われる。
		課題に向けた改善策	汲取り困難地区の把握を行い、計画的に整備を実施する。整備台帳にて経年劣化の恐れのある箇所を計画的に補修する。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	施設の維持管理を適正に行い、更新、補修等は計画的に行うこと。
効率性		前年度指摘事項である受益者負担のあり方が示されていない。受益者負担を原則として検討を進めること。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続
		●		事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。